

2017年

67号

特別号



2017年7月15日発行
医療法人社団以心会中野胃腸病院 広報誌編集室
愛知県豊田市駒新町金山1-12
☎ 0565-57-1611
http://nakanohp.com

エヌアイだより

医療法人社団以心会
中野胃腸病院

50th
Anniversary

病院の理念

私たちは、地域に根ざした消化器専門病院として、良き伝統を重んじつつ、慈愛と英知を結集し地域医療に貢献する。

基本方針

1. 私たちは、生命の尊重と人間愛とを基本とし、専門技術、知識、心を患者さんに提供するものとする。
2. 私たちは、ひとりひとりが病院の顔であるとの意識を持って、患者さんに奉仕するものとする。
3. 私たちは、ひとりひとりが常に技術知識の研鑽、向上に励み、礼節をもって患者さんに心から満足してもらうサービスを提供するものとする。
4. 私たちは、患者さんにとって良い医療を、迅速にサービスするものとする。

患者の権利と責任

1. 適切な医療を公平に受ける権利があります。
2. 病状と経過、検査や治療の内容などについて理解しやすい言葉で説明を受ける権利があります。
3. 十分な説明と情報に基づき、自らの意志で医療内容を選択する権利があります。
4. 診療上得られた個人情報保護される権利があります。
5. 患者さんは、私たちに對し自らの健康等に関する情報を正確に伝える責任があります。

写真資料より



1967年 知立市池端町に開院



1976年 3階部分を増築



1993年 健診センター開設



開院当時の職員



診察風景



1997年 西棟（外来診察棟）増設



開院当時の待合室の様子



1982年 豊田市に移転



2004年 北棟（内視鏡検査棟）増設



検査風景



豊田市に移転当時の院内



現在



“Hospitopia” をめざして

初代理事長 故中野 貞生
(昭和 42 年～平成 23 年)

初代院長
(昭和 42 年～平成 4 年)

“Hospital”とは、語源的にみれば「訪れる人々を手厚くもてなすところ」という意味であります。

中世において、ヨーロッパ各地につくられた修道院では、病める不幸な人に対して、真心をもって尽くすことが戒律とされ、修道僧に病人が出ると“Infirmarien”と呼ばれる特別な部屋に入れて手厚く看護しました。

その頃、イエスキリストの聖地をめざして旅する巡礼がひきもきらず、修道院はその人たちの宿ともなりました。この巡礼を“Hospes”（外来の客）、その宿所を“Hospiz”といいました。この Hospes の中には、急病や飢え、疲労のために働けない人やハンセン氏病の人などもいたため、Hospiz となった修道院では、これらの人々を手厚く看病し、健康を回復させ、再び聖地へと旅立たせました。

ちょうど同じ頃、フランク王国の首都リヨンには、協会の支配のもと、“Hôtel Dieu”（神の宿の意）が誕生しました。それはキリスト教の宗教活動のひとつとしてはじまったものですが、病める人々や貧しい人々の世話をする特定の施設としてはフランス最古のものであり、これが現代の病院の原形であるといわれています。

十字軍の時代になると、聖地エルサレムへの遠征途上で疫病や飢えのために倒れる兵士が数多く、これらの兵士を救助し世話をする慈恵団が組織されました。そして、その団員は“Hospitaller”と呼ばれました。

これらの施設や組織、それに活動が現代の病院というものの起源であり、その歴史事実から Hospiz と Hôtel というふたつの言葉が合成されて“Hospital”という語が生まれたのです。

いま、わたくしたちの中野胃腸病院は、病院というものの原点にたちかえり、その起源の精神を現代に生かし、さらに病院の理想を模索しながら、病院の理想郷“Hospitopia”をめざしています。病める人々が中野胃腸病院を訪れ、適切な診断と治療と回復への看護を受けて健康をとるもどし、再び幸せな人生へと旅立っていくことを願っています。

そのための施設として、わたくしたちはこの新病院の建設を思い立ったのです。

病める人々にとってはもちろん、この病院で働く人にとっても快適な環境と満足すべき施設の中で消化器疾患の診断と治療、それに研究活動に専念し、その行為、活動を通じて、この中野胃腸病院にかかわるすべての人々に幸せをもたらす理想郷への第一歩を、わたくしたちは踏み出しました。

1982 年 病院案内より

中野胃腸病院 50 周年を迎えて

二代目理事長 中野 浩一郎
(平成 23 年～)



昭和 42 年に故中野貞生前理事長が設立した中野胃腸病院は、今年 50 周年を迎えることとなりました。これもひとえに、永年にわたり関係各位の変わらぬご指導ご支援、さらに当院の良き伝統を引き継いでくださった先輩各位の努力の賜物と、深く感謝申し上げます。

中野貞生は、10 人兄弟の次男として、昭和 7 年 1 月 12 日、現在の刈谷市で生まれました。父親の増右衛門は、昭和 12 年にシナ事変にて出兵、長男は太平洋戦争で出兵しました。10 歳で父を亡くし貧困生活の中においても、高校在学中、生徒会議長をつとめ、母校の硬式野球部の創設に尽力し、新聞部、文芸部を主宰しさらには弁論部の活動も行っていました。卒業後、家族を支えるべく、進学せずに運転免許がないため地元の運輸会社に運転助手として就職しました。その後、親友の父であり、当時の運送会社社長・藤井清七氏や増右衛門の生前の直属の上司であった石田退三氏から大学進学を勧められ、奨学金を受けて、夜間はアルバイトをしながら医学の世界へ。当時、多くの人が苦労した時代でしたが、貞生もその中の一人でした。

戦中、戦後の貧困を経験して医師となった貞生は、高い理想を胸に“Hospitopia を目指して”、昭和 42 年に中野胃腸科病院を現在の知立市に開設。時代は早期胃がんの黎明期、早期胃がん研究会、東海胃腸疾患研究会など、第一線の消化器医が診断学を向上させようと情熱を傾注していた時代でした。貞生もこのような研究会に足繁く通い、研鑽を積み上げていきました。消化器専門の診療所(当初、病院の予定ではなかった)を開設して自ら研究会を開き、日本の医療発展に貢献したいという理想を実現することも、当病院を開設した理由の一つと、後に述懐しています。

開設当初から開かれていた当院主催の研究会は、臨床で得られた貴重な資料を持ち寄り、各大学病院の医師、看護師、技術職、事務職の方までもが集い、熱気に溢れた議論は夜更けまで続いたそうです。当院の伝統の一つは、謙虚に検討を重ねて培われた正確な診断学が礎にあり、ゆえに今の中野胃腸病院があるといっても過言ではありません。現在も初心を忘れず、検討会で議論を重ね、正確な診断、最良の治療を心掛けています。

わが国の平成 27 年の死亡原因のトップは、悪性新生物「がん」であります。がんの中で大腸がん 2 位、胃がん 3 位、膵臓がん 4 位、肝臓がん 5 位と、消化器がんが上位を独占しています。日本のがん診療の多くは主として消化器科の医師によってなされているといっても過言ではありません。さらに、日本の消化器がんにおける診療レベルはきわめて高く、胃がんと診断されてから 5 年生存率は、欧米先進諸国でせいぜい 25 ～ 30％に対して、わが国の胃がんの 5 年生存率は 70％以上に達しています。高い医療水準を支える内視鏡診断、内視鏡手術の技術は先人の功績によって世界に誇るものであります。当院は消化器専門病院として、内視鏡検査、内視鏡治療が最大の特徴であり、その一端を担っているものと自負しております。

予防医学の重要性が近年言われて久しく、当院も健診センターを併設するなど、予防医学における役割は大きなものとなっています。特に最近、胃がんについては、H.pylori 感染との関わりが明らかになり、感染症の一つとして認識されるようになってきました。そして、1 次予防として H.pylori 除菌による胃がん予防が可能な時代になりました。2 次予防は従来通り早期診断、早期治療で検診が主体となります。このように医学の進歩とともに疾患に対する捉え方も刻々と変化しています。画像診断もアナログからデジタルへ、治療も開腹手術から内視鏡手術へ常に進化しています。当院では、このような進化、技術革新に迅速かつ柔軟に対応してまいりましたが、これからも専門性を生かし探求心、向上心を持って地域医療に貢献してまいります。

現在、私たちを取り巻く医療環境は大変厳しい状況ですが、50 年の歴史を胸に、心新たになお一層、専心努力する所存ですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

50 年の歴史の中で主な出来事

年（元号）	出来事
1967(昭 42)	知立市にて中野胃腸科病院開設（病床数 2 2 床）
1971(昭 45)	診察室増設
1975(昭 50)	医事コンピューター導入
1976(昭 51)	病床数を 3 5 床へ変更
1978(昭 53)	経営主体法人化 病院移転計画調査開始
1980(昭 55)	新病院建設プロジェクト発足
1981(昭 56)	新病院建設工事着工（豊田市）
1982(昭 57)	新病院竣工（ 1 0 月 1 1 日診療開始）6 7 床 中野胃腸科病院→中野胃腸病院と改称
1987(昭 62)	9 月 1 6 日午後診察開始（ 1 7 時～ 1 9 時） 病院憲章制定
1990(平 2)	第 1 回 納涼祭実施
1992(平 4)	腹腔鏡下胆のう摘出術開始 電子内視鏡導入
1993(平 5)	健診センター竣工（ 1 0 月） C T 装置導入
1995(平 7)	患者食バイキング料理導入
1996(平 8)	増改築工事着工
1997(平 9)	増改築工事完成（西棟） 外来診察棟新設
1998(平 10)	W E B ページ公開
1999(平 11)	広報誌「エヌアイだより」創刊
2000(平 12)	病院機能評価認定 訪問看護ステーションなかの開設 居宅介護支援事業所なかの開設 内視鏡 I T ナイフ（後の E S D ）開始
2001(平 13)	ヘリカル C T 導入 超音波内視鏡（ E U S ）開始 画像ファイリングシステム導入
2002(平 14)	増改築工事検討
2004(平 16)	増築工事終了（北棟） 高周波手術装置導入
2005(平 17)	乳腺 X 線診断装置導入 小腸内視鏡装置導入・拡大内視鏡開始 腹腔鏡下大腸切除術開始 病院機能評価更新
2006(平 18)	人間ドック健診施設機能評価認定 小腸ダブルバルーン内視鏡開始
2008(平 20)	オーダーリングシステム導入
2009(平 21)	化学療法室増設 腹腔鏡下胃切除術開始
2010(平 22)	病院機能評価更新
2011(平 23)	中野貞生理事長死去 中野浩一郎理事長就任 健診センターなかの リニューアル 総合健診システム導入
2013(平 25)	放射線装置全面デジタル化
2014(平 26)	ヘリカル C T 8 0 列導入
2015(平 27)	病院機能評価更新
2016(平 28)	患者支援室開設